
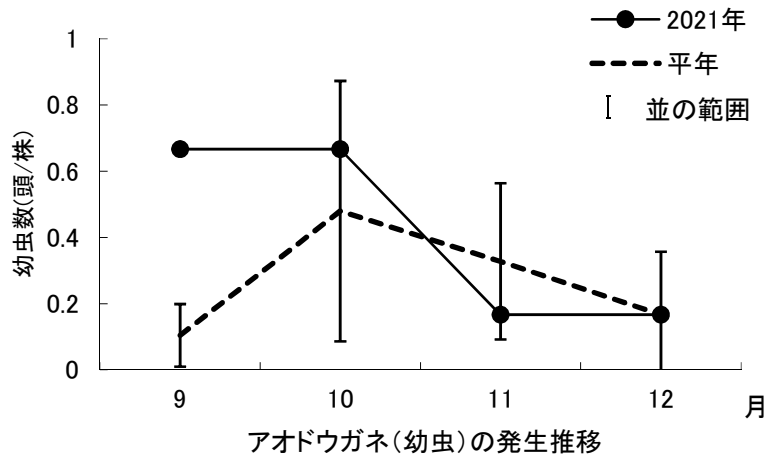


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	-		
	1 月の発生量 (平年比)	-		
予報の根拠				

調査結果


今期と平年の推移



発生ほ場率 : 33.3% (平年値 : 27.0%)

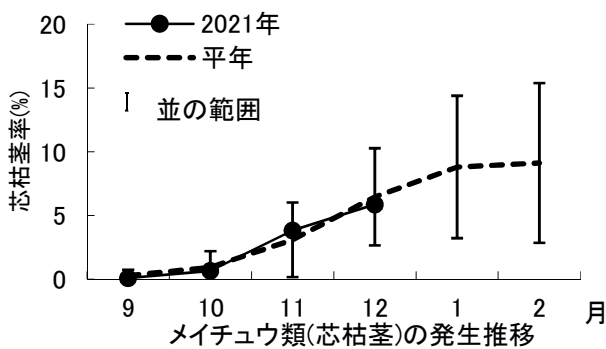
防除のポイント

- ・被害ほ場では早期に収穫し、直ちに碎土を行い、幼虫密度の低減を図る。

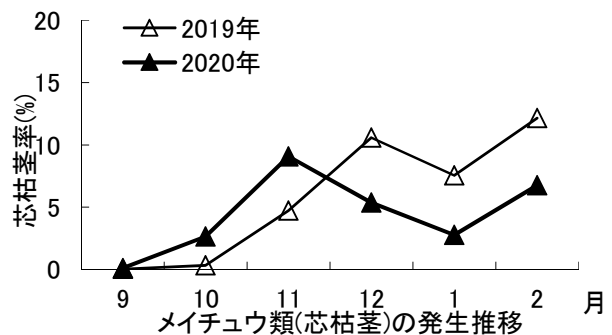
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

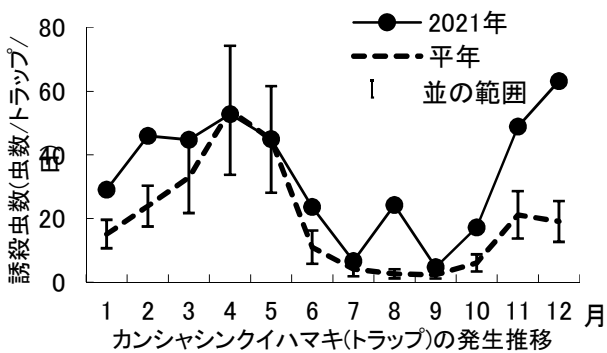
今年と平年の推移



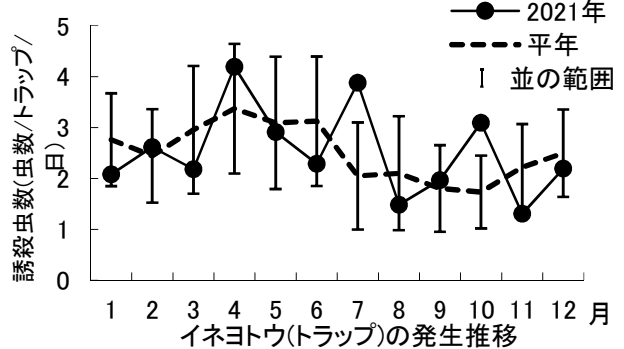
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



発生ほ場率：85.0% (平年値：72.8%)

茎内で派生したメイチュウ類のうち、84.6% (11/13頭) がカンシャシクイハマキ、15.4% (2/13頭) がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。